

教えて 学んで 楽しもう

# 学びのトレジャー

Vol.4

2024年1月26日

## 「楽しさ」と「やりがい」 を感じる自画像の授業

山形大学附属中学校

武田 貴紀 先生

「自画像」と聞くと、生徒たちはそろって嫌な顔をする。「上手く描けない」「自分を描きたくない」が主な理由。しかし今回の授業で驚きと喜びがあったので、それを紹介させていただきたい。

人物画を似せるポイントは「客観視」「バランス」だと私は考える。そこで、

- 1.友人同士で撮影した画像を白黒印刷
- 2.写真に写る全てを計測
- 3.描きたい倍率を導き出し、位置や大きさを計算
- 4.素描

という流れで進めた。形が見えてくると、最初は嫌がっていた生徒も「似てきた!」と興奮してくる。立体感や質感に留意させていけば、なおのことである。

「人物画」に対する生徒評価は、面白さが85点、満足度は74点。

次に主観的に自分の内面を捉え、色や形で表現する「心模様(背景)」を別画用紙に描き進めた。素描、モダンテクニック、切り貼り。平面であれば表現方法は自由。画用紙の枚数も自由にしたので失敗を恐れずに進められる。



背景素材をついたら人物画との組み合わせ。強度を保つため、黒ボール紙に素材を貼ったり、切り抜いて裏から貼ったり。「自分の心はどんな色?どんな形?」と試行錯誤しながら制作・切り貼り等、悩みながらの制作だった。自画像完成後の生徒評価は面白さが91点、満足度が81点。どちらも人物画から6点以上も数値が上がった。驚いた。

その理由として「毎時間楽しんで描けた」「今までの自分を遥かに超える絵」「思い描いていた作品」「背景を描くことで明確に心情を表せた」「自分と向き合えた」「最初とは気持ちが変わったが、今の自分を表せた。自分も成長していることが分かった」というコメントが見られた。



中でも「やりがいを感じた」という言葉が一番多かった。「写実」と「心象表現」を別にすることで人物画に納得できなかった生徒もリセットでき、構成の面白さを感じながら新しい気持ちで制作できたことが良かった。

生徒たちの笑顔と言葉に本当に励まされた。楽しい授業をこれからも創っていきたい。

**開隆堂**